

趾皮膚炎の局所治療における湿潤療法（ラップ療法）の応用

東播基幹家畜診療所

○梁瀬 博 三谷 睦 白澤純一 上田茂樹

人医面において、皮膚損傷・褥創の治療に表皮組織の再生を促進する湿潤療法（ラップ療法）が優れた治療効果をおさめている。今回、この湿潤療法を趾皮膚炎の局所治療に応用し、その効果を検討した。

材料および方法

1. 2011年4月から2012年12月まで、6酪農場における延べ95頭、143肢に実施した。
2. ラップ（被覆材）の作製は、生理用ナプキン、水切りポリ袋（三角コーナ用）を用いた。
3. 外用薬にはOTC可溶散50% 1gと白色ワセリン10gを混合したものを使用した。
4. ラップ療法

患部を流水で十分洗浄後、外用薬を塗布したラップを患部に密着するように貼り付けて伸縮包帯で保護した。ラップ包帯は概ね一週間毎に交換した。

結果

1. ラップ療法にかかる費用は、被覆材と外用薬で1回あたり34.6円と安価であった。
2. 患部切除を行わずにラップ療法のみを行った場合、15日以内に治癒した割合は114/120肢（95%）であった。発生部位別では掌側皮膚部で58/58肢（100%）、蹄球角質部で36/40肢（90%）、趾間皮膚部で12/14肢（85.8%）、趾間背側縁部で8/8肢（100%）が治癒した。
3. 趾間過形成に併発し過形成部を切除した症例（10例）では、切除部位が上皮化するまでにラップ療法期間は20.5日間（15～37日間）を要した。
4. 外用薬にワセリンを用いることでOTCの組織への経皮吸収性を高めるとともに、糞尿による患部の汚染を防げた。
5. 再発病は、最終診療日より3ヵ月以上経過観察のできた61頭中6頭（9.8%）に認められた。再発を認めた6頭の再発時期は最短で4ヵ月後、最長で10ヵ月後であった。

考察およびまとめ

趾皮膚炎に湿潤療法を応用することにより、不全角化した病変部の角質層の自己融解を促進し、表皮組織の再生作用が従来法より優れているため、早期に治癒し再発もおさえられたと考える。皮膚角質層のバリア機能は乾燥していることが望ましいが、感染と炎症をおさえるためにワセリンを用いた外用薬の応用により、病変部を乾燥させず、糞尿との接触を制限できるラップを組み合わせた本療法が趾皮膚炎の治癒を促進したと考える。また、発生部位、病変状態からラップ療法に要する期間が推定できた。